



This recycle mark indicates that the packaging conforms to
the environmental protection legislation in Germany.

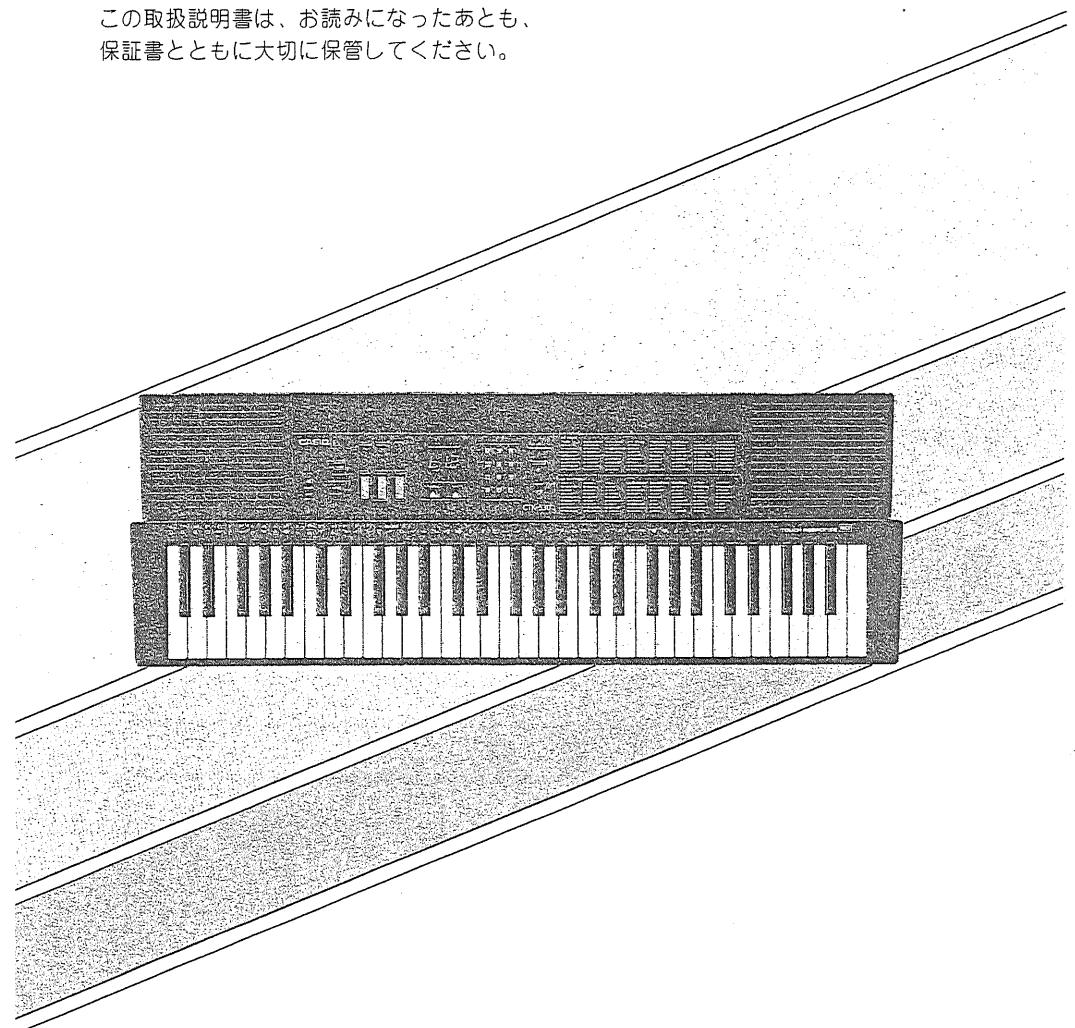
これは、梱包箱がドイツの環境保護法に適合していることを
示すリサイクルマークです。

CASIO

CTK-530

取扱説明書（保証書別添）

この取扱説明書は、お読みになったあとも、
保証書とともに大切に保管してください。



カシオ計算機株式会社

本書は、旧製品の取扱説明書を電子化したものです。
一部見えにくい箇所がございます。

記載されている内容はすべて販売当時のものです。
仕様や価格などは、その後予告なしに変更されることがあります。
あらかじめご了承ください。

はじめに

このたびは、カシオ製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
ご使用の前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。

安全上のご注意

絵表示について この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようにになっています。

！警告 この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示しています。

！注意 この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が障害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

- △ 記号は「気をつけるべきこと」を意味しています。（左の例は感電注意）
- 記号は「してはいけないこと」を意味しています。この記号の中や近くの表示は、具体的な禁止内容です。（左の例は分解禁止）
- 記号は「しなければならないこと」を意味しています。この記号の中の表示は具体的な指示内容です。（左の例は電源プラグをコンセントから抜く）

！警告

ACアダプターの取り扱いにご注意ください。

- 表示された電源電圧（交流100V）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- 電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店またはカシオサービスセンターで新しいACアダプターをお買い求めください。そのまま使用すると火災・感電の原因となることがあります。
- 電源コードを傷つけたり、破損したりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したりしないでください。電源コードが破損し、火災・感電の原因となることがあります。
- 電源コードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- 本機指定のアダプターをご使用ください。指定以外のアダプターをご使用になりますと、火災・感電・故障の原因となることがあります。



安全上のご注意

！警告

本機や別売品のスタンドやイスを不安定な場所に置かないでください。

- ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。

水などの入った容器などを置かないでください。

- 本機の上に次のものを見かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となることがあります。
 - * 水などの入った容器。（花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬品など）
 - * 小さな金属物。（ヘアピン、縫い針、硬貨など）
 - * 燃えやすいもの。



万一、異物が本機の内部に入った場合は、次の処置を行なってください。

1. 本機の電源スイッチを切る。
2. ACアダプター本体をコンセントから抜く。
(電池が入っている場合には電池を抜く。)
3. 販売店またはカシオサービスセンターに連絡する。



分解・改造はしないでください。

- 本機、および付属品、別売品を分解、または改造しないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。内部の点検・調整・修理は、販売店またはカシオサービスセンターにご依頼ください。



異常・故障状態で使用しないでください。

- 煙が出ている、へんな臭いがするなどの異常状態で使用しないでください。また、電源が入らない、音が出ないなどの故障状態で使用しないでください。火災・感電の原因となることがあります。すぐに次の処置を行なってください。お客様による修理は危険ですから、絶対におやめください。



1. 電源スイッチを切る。
2. ACアダプター本体をコンセントから抜く。
(電池が入っている場合には電池を抜く。)
3. 修理を販売店またはカシオサービスセンターに依頼する。



本機を落としたときは。

- 万一、本機を落としたり、破損した場合は、次の処置を行なってください。そのまま使用すると火災・感電の原因となることがあります。



1. 電源スイッチを切る。
2. ACアダプター本体をコンセントから抜く。
(電池が入っている場合には電池を抜く。)
3. 販売店またはカシオサービスセンターに連絡する。



ポリ袋をかぶらないでください。

- 本機や付属品または別売品が入っているポリ袋をかぶらないでください。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。窒息の原因となることがあります。

! 注意

ACアダプターについて

- 電源コードをストーブ等の熱器具に近付けないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
- ACアダプターをコンセントから抜くときは、必ずACアダプター本体を持って抜いてください。コードを引っ張るとコードが傷ついたり切れたりして、火災・感電の原因となることがあります。
- 濡れた手で、コンセントに差し込んであるACアダプターに触れないでください。感電の原因となることがあります。
- 旅行などで長期間本機をご使用にならないときは、安全のため必ずACアダプター本体をコンセントから抜いてください。
- 使用後は本機の電源スイッチを切り、ACアダプター本体をコンセントから抜いてください。



感電注意



プラグをコンセントから抜く

乾電池について

- 電池の誤った使い方は、破裂、液もれにより、けがや本機の故障、液もれの付着による家具などの変色の原因となることがあります。次のことを必ずお守りください。
 - * 極性（+）の向きを、本体表示通りに正しく入れてください。
 - * 旅行などで長期間本機をご使用にならないときは、安全、液もれ防止のため、必ず電池を本機から抜いてください。
 - * 同じ種類の電池を使ってください。
 - * 新しい電池と古い電池を混ぜて使わないでください。
 - * 火中に投入したり、ショートさせたり、分解、加熱をしないでください。
 - * 消耗したときはすぐに取り出してください。
 - * 充電は絶対にしないでください。

移動させるときは

- 移動させる場合は、必ずACアダプター本体をコンセントから抜き、その他の外部の接続線をはずしたことを確認の上、行なってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。



プラグをコンセントから抜く

お手入れについて

- お手入れの際は、安全のためACアダプター本体をコンセントから抜いて行なってください。また、電池が入っている場合には、電池を抜いて行なってください。



プラグをコンセントから抜く

設置場所について

- 温度の高い場所やほこりの多い場所には置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- 調理台や加湿機のそばなど、油煙や湯気があたるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。



感電注意

! 注意

本機や別売品のスタンドの上に乗らないでください。

- 本機の上やスタンドに乗らないでください。特に、小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。倒れたり、こわれたりしてけがの原因となることがあります。

本機に重いものを置かないでください。

- 本機に重いものを置かないでください。倒れたり、落ちたりしてけがの原因となることがあります。

別売品のスタンドについて

- スタンドに記載されている組み立ての説明にしたがって、しっかりと組み立ての上、本機を正しく設置してご使用ください。ネジが正しい位置にしっかりと固定されていなかったり、本機の位置がずれていたりすると、スタンドが倒れたり、本機が落ちたりして、けがの原因となることがあります。

別売品のイスについて

- イスに記載されている組み立ての説明にしたがって、しっかりと組み立ててご使用ください。イスをゆらしたり、傾けたり、イスの上で飛び跳ねたりしないでください。変形したり、ネジがゆるんだりすると、倒れつけがの原因となることがあります。

音量について

- 本機のみ、あるいは本機をヘッドホン、アンプ、スピーカーなどと組み合わせて使用する場合、設定によっては難聴になる程度の音量となることがあります。大きい音量で長時間ご使用しないでください。万一、聴力の低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師にご相談ください。

付属品や別売品は、必ず指定のものをご使用ください。

電池が消耗したときの状態について

下記のような状態になった場合は、電池が消耗しています。

速やかに、新しい電池とお取り替えください。

- 電源ランプが暗くなった。
- 音量が小さくなった。
- 音質が劣化した。
- 大きな音を出すと、時々音が途切れる。
- 大きな音を出すと、突然電源が切れる。
- 鍵盤を押していないのに音が出続ける。
- 指定の音色とは異なる音を発音する。
- リズムやデモ演奏曲などが正しく発音されない。

目次

主な特長	5
すぐ使いたい方に	6
各部の名称	12
電源について	14
家庭用100V電源で使うときには	14
電池で使うときには	15
オートパワーオフ機能	16
ヘッドホンを使うには／ 外部機器と接続するには	17
ヘッドホンをつなぐには／オーディオ機器とつなぐには／楽器用アンプとつなぐには	
鍵盤を弾いてみましょう	18
和文操作シートをセットしましょう	18
音を出すには	18
全体の音量について／同時発音数について／デジタル・サンプリングの音色について	
音色を選ぶには	20
十ボタン、一ボタンについて／組み合わせの音色について	
リズムを鳴らしてみましょう	22
リズムを鳴らすには	22
伴奏の音量について／テンポについて	
リズムを選ぶには	24
リズムに変化をつけるには (フィルイン)	25
デモ演奏を聴いてみましょう	26
全曲を聴くには	26
曲を選ぶには	26
演奏を止めるには	26
自動伴奏を鳴らしてみましょう	27
伴奏鍵盤について／コードの指定方法について	

伴奏を鳴らすには	28
カシオコード／フィンガード	
伴奏とリズムを同時にスタートさせるには (シンクロスタート)	30
伴奏にイントロ、エンディングを 加えるには	32
イントロについて／エンディングについて	
実際に使ってみましょう	33
その他の伴奏機能(フルレンジコード)	34
フルレンジコード1について／フルレンジコード2について	
全体の設定を変えてみましょう	38
タッチレスポンスについて／トランスポーズ (移調)について／チューニングについて	
MIDIを使うときには	42
MIDIとは	42
MIDIでできること	42
送信／受信／音域について／デモ演奏曲について／タッチレスポンスについて／10チャンネルについて／MIDIインプリメンテーション・チャートについて	
MIDI関連の操作	44
操作の概要／ベーシックチャンネルの設定／ CHORDのON/OFF／Local controlのON/ OFF／受信チャンネルごとの音色の設定	
故障とお思いになる前に	46
ご使用上の注意	47
製品仕様	48
別売品のご案内	48
カシオトーン用ソフトのご紹介	49
音色別発音域表	50
フィンガードコード一覧表	52
保証・アフターサービスについて	55
MIDIインプリメンテーション・チャート	巻末

主な特長

■ 64種類の音色で演奏することができます。(64音色) [20]

鍵盤楽器や弦楽器、シンセサウンドなど、本機一台で64種類の音色が楽しめます。

■ 64種類のリズムに合わせて、演奏することができます。

(64リズム) [24]

ロックやポップス、ジャズのリズムなど、64種類のリズムに合わせて演奏ができます。

■ 3曲の自動演奏曲を鳴らして楽しむことができます。

(デモ演奏) [26]

3曲のオリジナル曲が内蔵されています。本機による演奏の「お手本」のようなものです。

■ 一人でもアンサンブル演奏のような楽しさが味わえます。

(自動伴奏機能) [27]

コードを指定するだけで、リズムやベース音、コード伴奏が自動的に演奏されます。この伴奏にイントロやフィルイン、エンディングを組み合わせて使うこともできます。また、フルレンジコードは弾き語りに最適です。

■ 鍵盤を弾く強弱に応じて、音量が変化します。

(タッチレスポンス機能) [38]

演奏表現の幅が、さらに広がります。

■ 楽譜を書き直さなくても、指の位置はそのまま移調できます。 (トランスポーズ機能) [39]

本機から出る音の高さを半音単位で上げ下げできます。

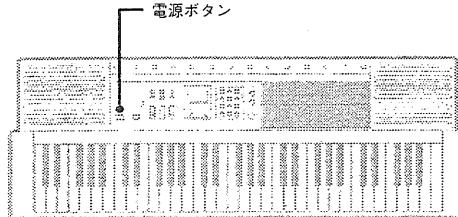
■ MIDI端子を備えています。(MIDI IN/OUT) [42]

他のMIDI機器と接続すれば用途が広がります。例えば、MIDIシーケンサーと組み合せれば、本機1台で複数のパートを鳴らすことができます。

すぐ使いたい方に

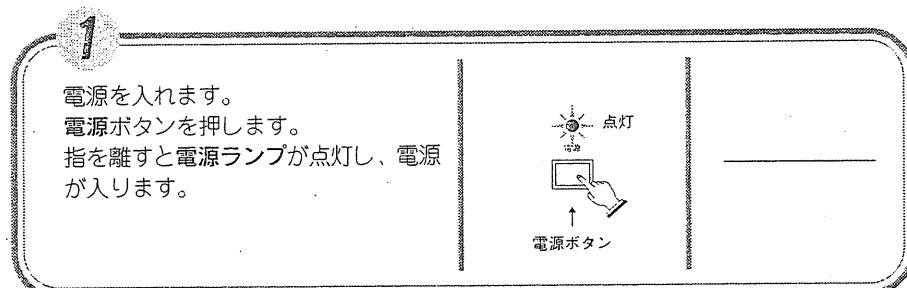
すぐ使いたい方に

ここでは、本機を使うために必要な基本的操作を紹介します。
それぞれの機能についての詳しい説明は該当する章を参照してください。
操作説明は、すべて付属の和文操作シート上の文字を使用しています。
(18ページ「和文操作シートをセットしましょう」参照)



操作の前に

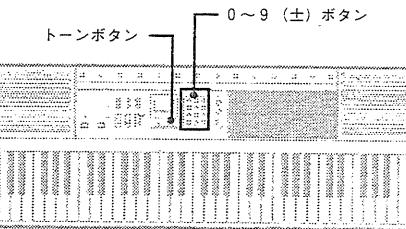
14ページを参照して電源を準備してください。



1 電源を入れます。

電源ボタンを押します。

指を離すと電源ランプが点灯し、電源
が入ります。



まず、いろいろな音色で演奏してみましょう

本機には64種類の音色が内蔵されています。

64トーン

ピアノ

オルガン/クロマチックバーカッショニ

ギター/ベース

00 ピアノ 08 エレクトリックオルガン 16 カノトキター

01 ハードピアノ

09 ノンスオルカン 17 アコースティック

02 ホンキートンク

10 口/オルカン 18 エレクトリックギター

03 エレクトリックピアノ1

11 チェーチオルカン 19 ミュートキター

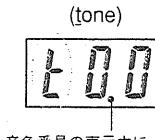
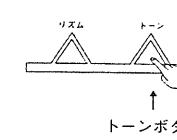
04 エレクトリックピアノ2

12 アコ-ティオン 20 ティストーシヨン

2

鍵盤を弾いてみます。

トーンボタンを押すと、表示に今演奏
している音色の番号を表示します。

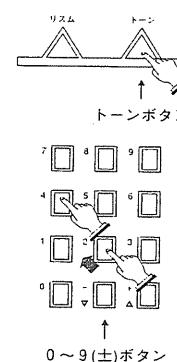


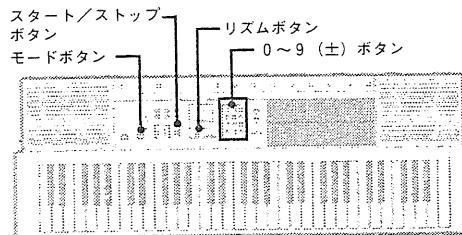
3

音色を変えてみます。

・例えば“24 バイオリン”に変える
には、トーン,[2],[4]の順番でボタン
を押します。

・また、[+],[-]ボタンを押して、音色
番号を1ずつ変えることもできます。
音色を変えたら、鍵盤を押して音を聴い
てみてください。





リズム／伴奏を鳴らしてみましょう

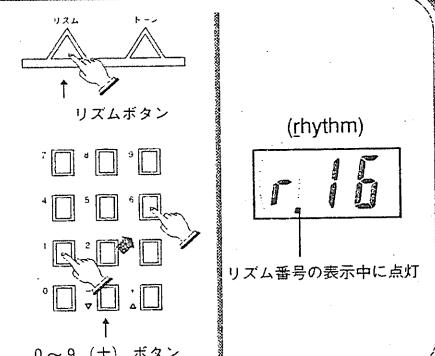
本機には64種類のリズムが内蔵されています。それぞれのリズムは打楽器のパートを鳴らすだけではなく簡単な方法で和音を指定して、ベースやコード楽器による伴奏音を自動的に鳴らすこともできます。

64リズム		
ポップス I	ポップス II	ロック
00 ナイスクループ	08 16ヒート1	16 ロック1
01 ポップス1	09 16ヒート2	17 ロック2
02 バラード	10 8ヒート1	18 リフロック
03 ポップバラード	11 8ヒート2	19 50'Sロック
04 クルーフボップ	12 ポップス2	20 シカゴブルース

1

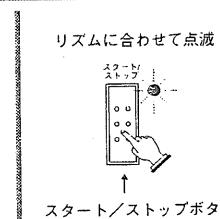
リズムの選び方

- 例えは“16 ロック1”を選ぶときは、リズム、[1]、[6]の順番でボタンを押します。
- また[+], [-]ボタンを押して、リズム番号を1ずつ変えることができます。



2

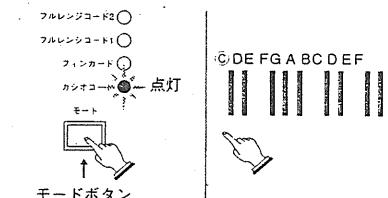
リズムを鳴らしてみましょう
スタート／ストップボタンを押すと、選んだリズムが鳴り始めます。



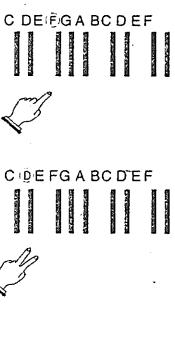
3

伴奏をつけてみましょう

モードボタンを押して、“カシオコード”的ランプをつけてから、一番左のCの鍵盤を押してください。Cメジャーの和音で自動伴奏が鳴り始めます。



次に、図のFの鍵盤を押してください。
和音がFメジャーになります。

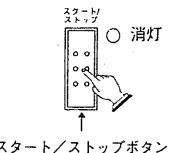


今度はDの鍵盤とその右の鍵盤(E)を
いっしょに押してください。和音がDマ
イナーになります。

このように指一本からの簡単な操作で自
動伴奏を鳴らすことができます。また他
にも和音の指使いでコードを指定する方
法があります（詳しい操作は29ページ
にあります）。

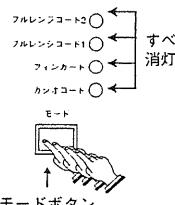
4

リズムを止めます。
スタート／ストップボタンを押します。



5

モードボタンを4回押して、どのラン
プも消えている状態に戻しておきま
しょう。



操作方法のまとめ

今まで見てきたように、本機の各機能は

- 1： 設定したい機能のボタン（音色を選ぶのであればトーンボタンを、リズムを選ぶのであればリズムボタンを）押す。
- 2： 表示で現在設定されている状態を確認する。
- 3： 0～9（±）ボタンで希望の番号に変更する。

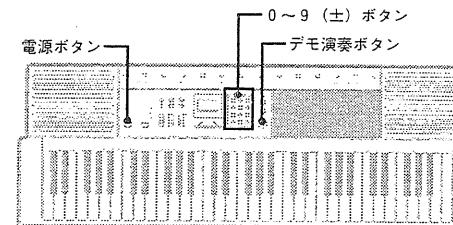
という、基本操作で使いこなすことができます。



本機の表示部には、通常は

1. 音色番号
2. リズム番号

のいずれかが表示されています。この他の番号は、各機能ボタンを押してから数秒間だけ表示されますので、その間にすばやく変更操作を行なうことになります。



デモ演奏曲を聴いてみましょう

本機には、3曲のデモ演奏曲が内蔵されています。デモ演奏曲は、本機の音色を巧みに使った、本機による演奏の「お手本」のようなものです。では、以下の手順で聴いてみてください。

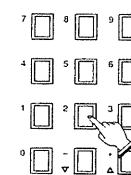
デモ演奏ボタンを押します。

表示にデモ演奏曲の番号が表示され、演奏が始まります。

曲の番号を変更するには、[0]、[1]、[2]、[+]、[-]を押してください。

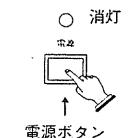
（例：曲番号“2”的とき）

デモ演奏曲を止めるには、デモ演奏ボタンを押します。（スタート／ストップボタンで止めることもできます。）

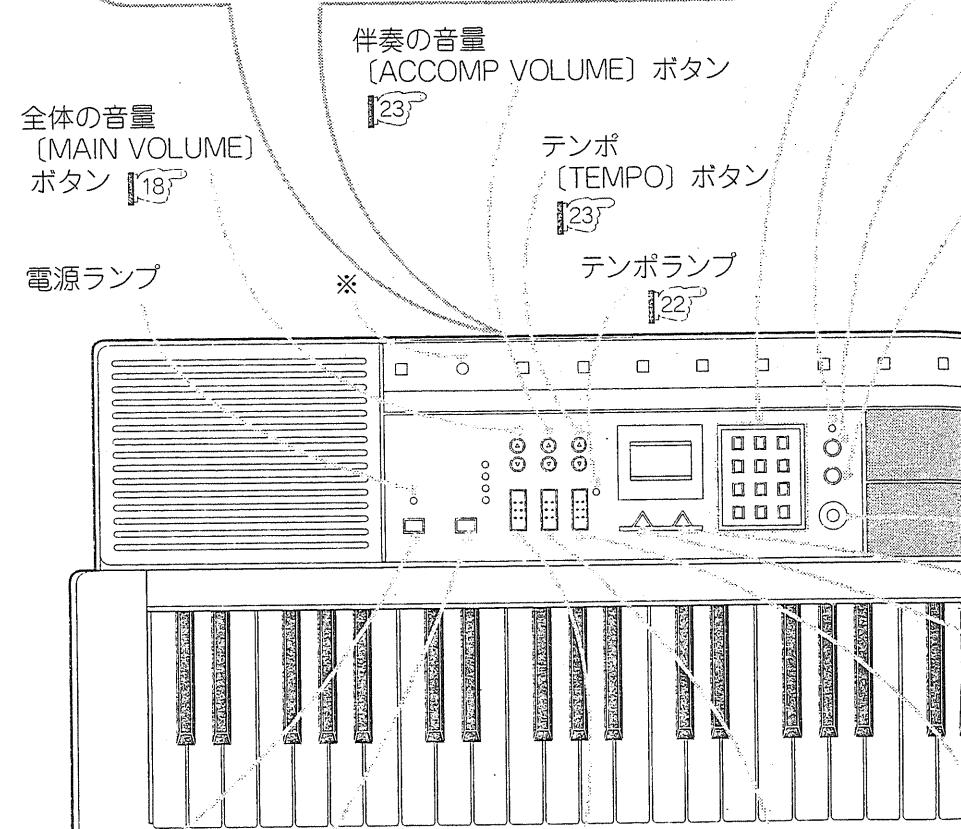
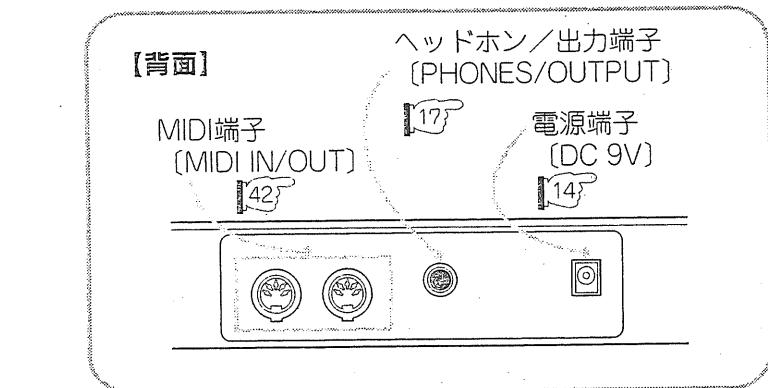


操作の最後に

電源を切ります。
電源ボタンを押します。



各部の名称



電源 [POWER] ボタン [18]
モード [MODE] ボタン [22]

インストロ／フィルイン [INTRO/FILL-IN] ボタン [25] [32]

シンクロ／エンディング [SYNCHRO/ENDING] ボタン [30] [32]

スタート／ストップ [START/STOP] ボタン [22]

リズム [RHYTHM] ボタン [24]

トーン [TONE] ボタン [20]

トーンリスト [64 TONES] ボタン [20]

リズムリスト [64 RHYTHMS] ボタン [24]

デモ演奏 [DEMO] ボタン [26]

タッチレスポンスランプ [38]

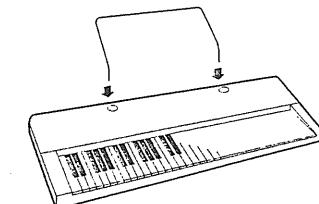
タッチレスpons [TOUCH RESPONSE] ボタン [38]

トランスポーズ／チューニング／MIDI [TRANSPOSE/TUNE/MIDI] ボタン [39] [40] [44]

0～9 (±) ボタン [20] [24] [26]

- 図内の数字は、参照ページです。
- 各部の名称は、付属の和文操作シート上の文字です。
(18ページ「和文操作シートをセットしましょう」参照)
- [] 内の文字は、本体に印刷されている名称です。
- 各部の名称は、本書の説明文中で太字で記載されます。

※譜面立ての立て方
付属品の譜面立ては、本体の上面にある2つの穴にその両端を差し込んでお使いください。



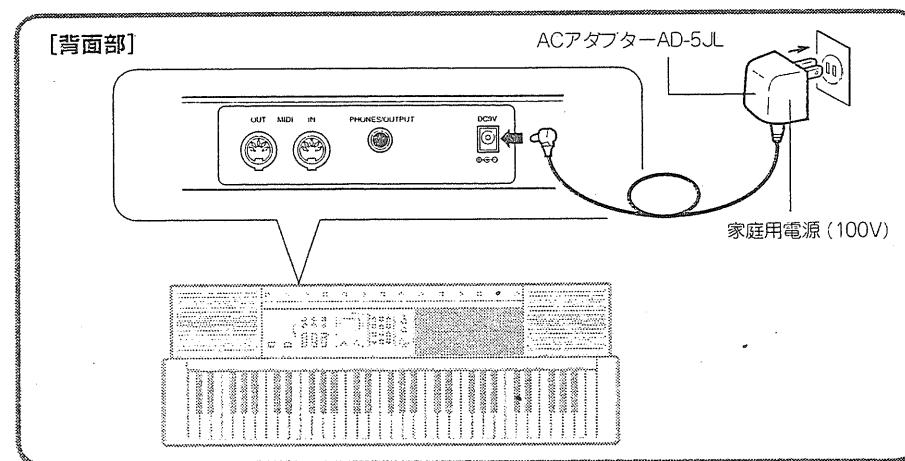
電源について

本機は家庭用100V電源、電池が使える2電源方式です。
ご使用後は、必ず電源を切ってください。

家庭用100V電源で使うときには

付属品の指定ACアダプターを接続してください。

本機指定ACアダプターの型式：AD-5JL（付属品）



■ ACアダプターご使用上の注意 ■

- アダプターを抜き差しするときは、必ず電源を切ってから行なってください。
- ご使用にならないときは、必ずアダプターを家庭用コンセントからはずしてください。
- アダプターは長時間ご使用になりますと、若干熱を持ちますが、故障ではありません。
- アダプターのコードを傷めないでください。



必ず本機指定アダプターをご使用ください。

指定以外のアダプターを使わないでください。

指定以外のアダプターをご使用になりますと、本体またはアダプターが故障したり、思わぬ事故につながります。絶対におやめください。

指定以外のアダプターのご使用による障害は保証できません。

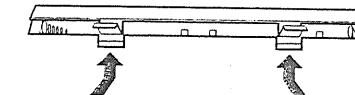
電池で使うときには

電池を入れる前には、必ず電源を切ってください。

【底面部】

電池ケースのフタ

1 電池ケースのフタをはずします。



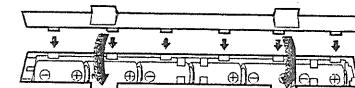
2 単1形電池6本を入れます。

* + - の向きに注意してください。



3 電池ケースの穴にツメを差しこみ、

電池ケースのフタを閉めます。



★ 電源を入れたまま電池を交換すると、正常に機能しない場合があります。この場合、一度電源を切ってから再び電源を入れ直してください。

■ 電池持続時間の目安について ■

● 電池持続時間は下記の通りです。

・マンガン電池 [R20P(SUM-1)] 使用時……約5時間*

* 常温にて、適切な音量で使用した場合の標準値です。大きめの音量や極端な低温下で使用すると、電池持続時間が短くなります。

● 下記のような状態になった場合は、電池が消耗しています。速やかに、新しい電池とお取り替えください。

- 電源ランプが暗くなった。
- 音量が小さくなつた。
- 音質が劣化した。
- 大きな音を出すと、時々音が途切れる。
- 大きな音を出すと、突然電源が切れる。
- 鍵盤を押していないのに音が出続ける。
- 指定の音色とは異なる音を発音する。
- リズムや自動演奏曲などが正しく発音されない。



電池の誤った使い方は、破裂、液もれにより、けがや本機の故障、液もれの付着による家具などの変色の原因となることがあります。
次のことを必ずお守りください。

* 極性 (+ -) の向きを、本体表示通りに正しく入れてください。

* 旅行などで長期間本機をご使用にならないときは、安全、液もれ防止のため、必ず電池を本機から抜いてください。

* 同じ種類の電池を使ってください。

* 新しい電池と古い電池を混ぜて使わないでください。

* 火中に投入したり、ショートさせたり、分解、加熱をしないでください。

* 消耗したときはすぐに取り出してください。

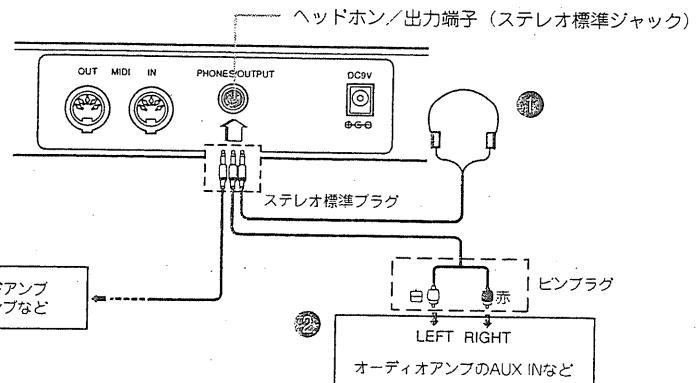
* 充電は絶対にしないでください。

ヘッドホンを使うには／外部機器と接続するには

準備

接続の際は、本機の全体の音量を(接続する機器側に音量調節があればそちらも)小さめにしておき、接続後、適切な音量にしてください。

[背面部]



■ ヘッドホンをつなぐには（図①）

内蔵スピーカーからは音が出なくなり、夜間なども周囲に気がねなく演奏を楽しめます。

■ オーディオ機器とつなぐには（図②）

市販の接続コード(標準プラグ×1、ピンプラグ×2)で図のように接続します。その際、片側(本機につなぐ側)がステレオ標準プラグのものご利用ください。(モノラルプラグでは、ステレオ出力の片側分の音しか出ません。)

通常はオーディオ機器側のインプットセレクターで、接続した端子(AUX IN等)に切り替えます。オーディオ機器の取扱説明書もよくお読みください。

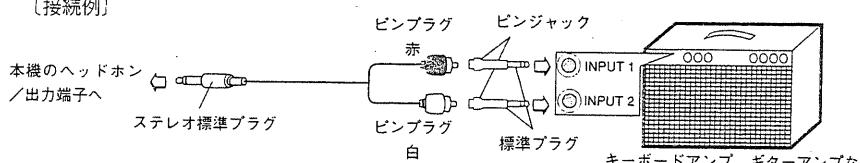
■ 楽器用アンプとつなぐには（図③）

相手側の機器に応じて、市販の接続コード*を使用します。

*本機につなぐ側：ステレオ標準プラグのもの
アンプにつなぐ側：左右両チャンネルの信号が入るようにする。
(どちらが欠けても、ステレオ出力の片側分の音しか出ません)

楽器用アンプなどと接続するとき、音量は本機の側を小さめにし、アンプ側で調節してください。

【接続例】



オートパワーオフ機能

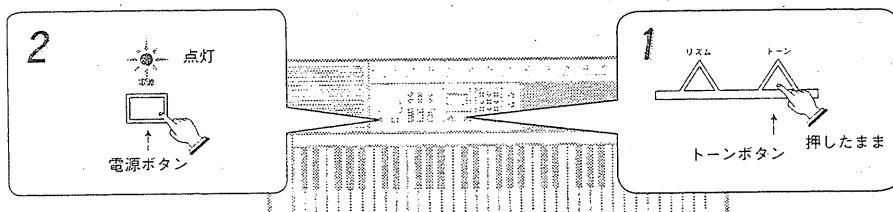
電源を入れたまま、本機を放置すると、自動的に電源が切れる機能です。無駄な電力消費を防ぐ自動節電機能で、操作完了後約6分で自動的に電源が切れます。この場合、電源ボタンを押せば、再び電源が入ります。



アダプターを使用しているときは、オートパワーオフ機能は働きません。

オートパワーオフ機能をキャンセルするには

- トーンボタンを押したまま、電源ボタンを押して、電源を入れます。
- ★このときは、放置しておいても電源が切れませんので、ステージでの演奏時など、状況に応じてご利用ください。

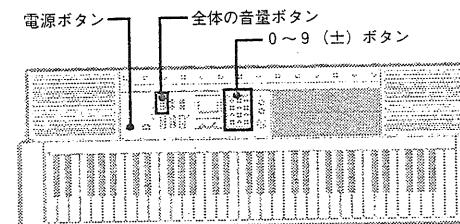
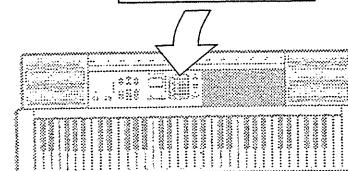


鍵盤を弾いてみましょう

和文操作シートをセットしましょう

付属品の和文操作シートを本体の上にのせてください。

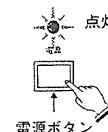
操作説明は、すべてこの和文操作シート上の文字を使用しています。



音を出すには

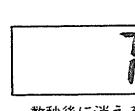
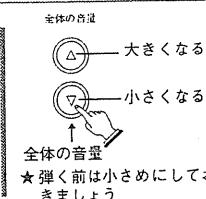
1

電源を入れます。



2

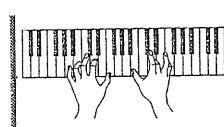
全体の音量を調節します。



3

鍵盤を弾いてみましょう

→現在選ばれている音色(初期状態では "00 ピアノ")が鳴ります。



鍵盤を弾いてみましょう

全体の音量について

- ・全体の音量の範囲は、最小“0”～最大“9”です。
- ・電源を入れたときは、“7”になっています。
- ・“0”的ときは、音が消えます。
- ・①または②のボタンを押したままになると、連続的に変化します。
- ・①と②のボタンを同時に押すと、“7”になります。
- ・操作2で全体の音量ボタンを押してから、0～9(±)ボタンで直接数字を押すこともできます。

全体の音量



同時発音数について

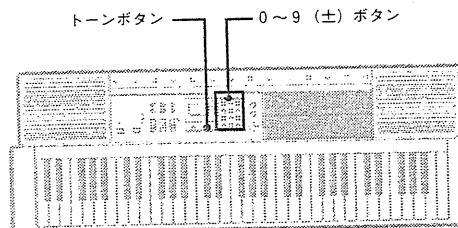
本機は、同時に最大24音まで発音します。

ただし、64音色のうち、一部の音色では最大12音になります(50ページ「音色別発音域表」参照)。リズムや、自動伴奏が鳴っているときは、鍵盤での演奏音の同時発音数が少なくなります。

デジタル・サンプリングの音色について

本機で鳴らすことのできる音色のいくつかは、「デジタル・サンプリング」という電子技術により、生の楽器の音を録音・加工したものです。こうした音色の中には、元になっている楽器音の音域ごとの音質を再現するために、低域・中域・高域など複数の音域ごとに元の楽器音を録音し、ひとつの音色に仕上げたものがあります。

一部の音色で、鍵盤によって音質や音量が若干異なる箇所がありますが、これは上記のようなサンプリング処理における音域の境目(スプリットポイント)で、故障ではありません。



音色を選ぶには

本機は、64種類の音色を内蔵しています。

1

鳴らしたい音色を選び、その番号を確認します。

トーンリスト
24 バイオリン
25 チェロ
26 ハープ
27 トランペット
28 トロンボーン
29 チューバ

例えば“ハープ”的音色なら“26”です。

2

トーンボタンを押します。

トーンボタン

リズム リズム
トーン トーン

音色番号を表示しているとき選ばれている音色番号が表示されます。

7 0.0

3

音色を番号(2桁)で指定します。

0~9 (±) ボタン
0
+
0
-
0
+
0
-
0
+
0
*

(例) 26

7 2.6

* + : 番号が1ずつ増える。
- : 番号が1ずつ減る。
★ “0.0”的ときーを押すと、“63”になります。“63”的とき十を押すと、“00”になります。

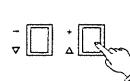
4

鍵盤を弾いてみましょう。



- 音色は、必ず2桁で指定してください。
- 音色によっては、音の高さがはっきりと認識しにくい場合があります。
- 64以上の音色番号は指定できません。
- 音色番号を押し間違えたときは、2桁目を押す前にトーンボタンを押せば、もとの音色番号に戻ります。

十ボタン、一ボタンについて



表示されている番号や数値を増やしたり減らしたりできます。

[+] 1ずつ増える

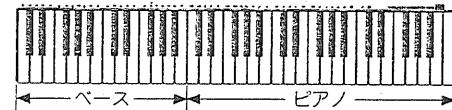
[−] 1ずつ減る

[+] または[−]を押したままにすると、連続的に変化します。

組み合わせの音色について

- 2つの音の混ざった音色があります。(例) “56 ストリングスピアノ1”
- 鍵盤上に複数の異なる音が割り当てられる音色があります。

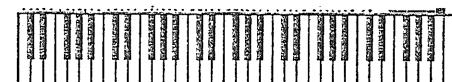
(例1) “60 ベース／ピアノ”



(例2) “63 パーカッション”

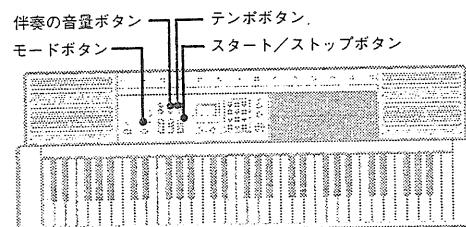
下図の打楽器が割り当てられています。

(鍵盤上側の打楽器のイラスト参照)



① パスドラム	♪ ライドベル	○ マラカス
② サイドスティック	○ タンバリン	+ ショート ホイッスル
③ アコースティック スネア	× スプラッシュシンバル	× ロング ホイッスル
× ハンドクラップ	△ カウベル	△ ショート ギロ
④ エレクトリック スネア	△ クラッシュシンバル 2	△ ロング ギロ
⑤ ロー フロアタム	△ ライドシンバル 2	× クラベス
△ クローズド ハイハット	△ ハイ ポンゴ	○ ハイ ウッドブロック
△ ハイ フロアタム	△ ハイ ポンゴ	○ ロー ウッドブロック
△ ベダル ハイハット	□ ミュート ハイ コンガ	△ ミュート クイーカ
△ ロー タム	○ オープン ハイ コンガ	△ オープン クイーカ
△ オープン ハイハット	○ オープン ハイ コンガ	△ ミュート トライアングル
△ ロー ミドルタム	○ ロー コンガ	△ オープン トライアングル
△ ハイ ミドルタム	○ ハイ ティンパレス	○ シエイナー
△ クラッシュシンバル 1	○ ロー ティンパレス	○ ベル
△ ハイ タム	○ ハイ アゴゴ	△ スティック
△ ライドシンバル 1	○ ロー アゴゴ	○ カスタネット
△ チャイニーズシンバル	○ カバサ	

リズムを鳴らしてみましょう



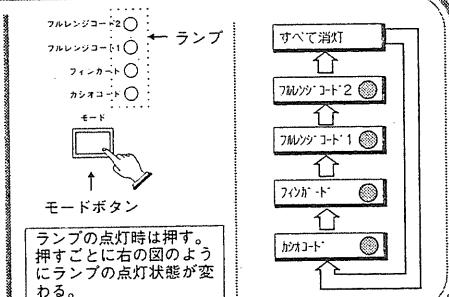
リズムを鳴らすには

準備

- 電源ボタンを“オン”にする。
- 全体の音量を調節する。

1

モードボタンのランプがすべて消灯している状態にします。



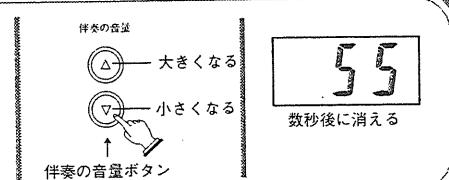
2

リズムをスタートします。
→ 現在指定されているリズムが鳴ります。



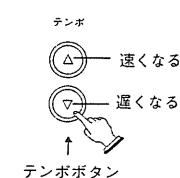
3

伴奏の音量を調節します。
★ 伴奏の音量が表示されている間に行なってください。



4

テンポを調節します。

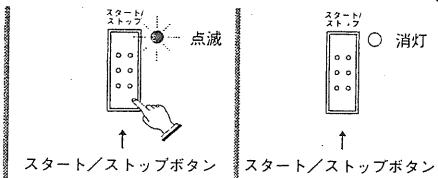


1分間の拍数
(数秒後に消える)

865
♩ = 65のときの例

5

リズムを止めます。



NOTE

- 電源を入れたときは、“00 ナイスグループ”的リズムが選ばれています。

■ 伴奏の音量について ■

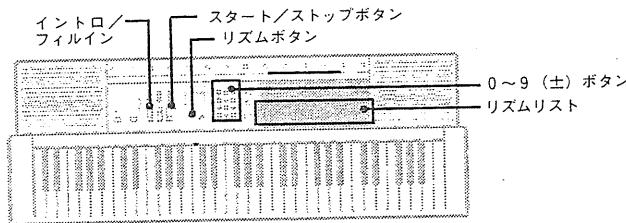
- 伴奏の音量の範囲は、最小“00”～最大“99”です。
- 電源を入れたときは、“55”になっています。
- “00”的ときは、伴奏音が消えます。
- △または▽のボタンを押したままにすると、連続的に変化します。
- △と▽のボタンを同時に押すと、“55”になります。
- 操作3で伴奏の音量ボタンを押してから、0～9(±)ボタンで直接数字を押すことができます。(このとき、必ず2桁で指定してください。)
- 伴奏の音量は、全体の音量で指定された音量のレベルの中で調節します。



■ テンポについて ■

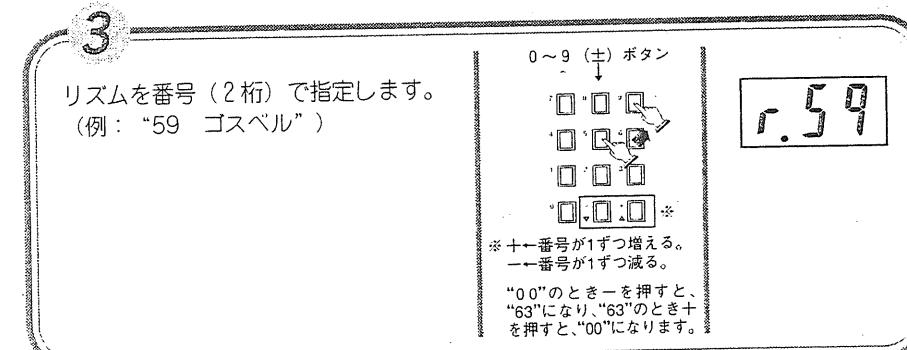
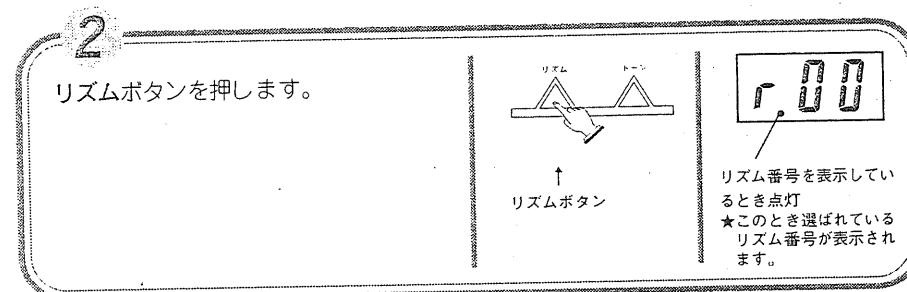
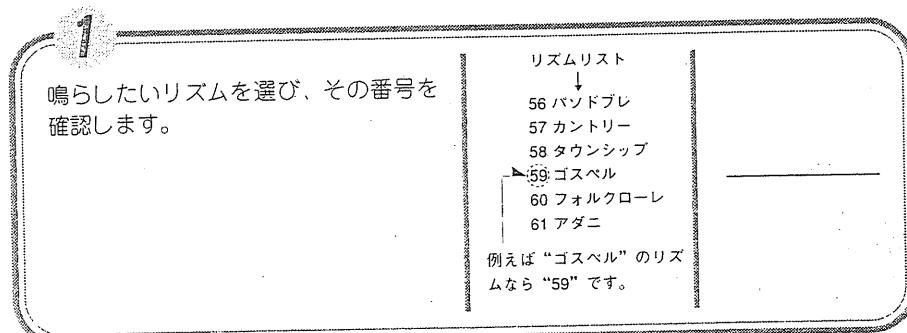
- テンポの範囲は、“040～255”で1ずつ変化します。
- 電源を入れたときは、“120”になっています。
- △または▽のボタンを押したままにすると、連続的に変化します。
- △と▽のボタンを同時に押すと、現在指定されているリズムのおすすめのテンポになります。
- 操作3でテンポボタンを押してから、0～9(±)ボタンで直接数字を押すこともできます。(このとき、必ず3桁で指定してください。)





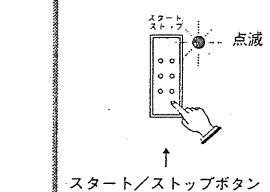
リズムを選ぶには

本機は、64種類のリズムを内蔵しています。



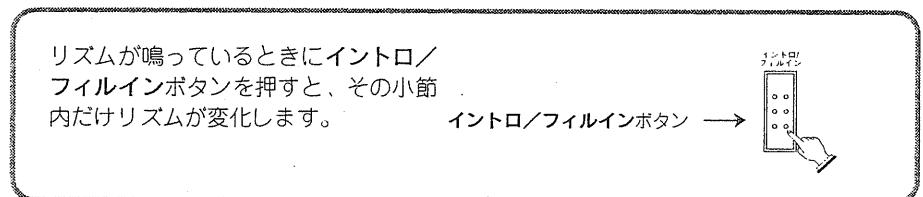
1

リズムを鳴らしてみましょう。

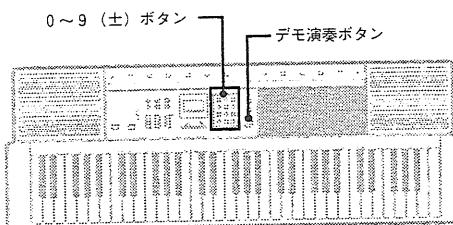


- ・リズムは、必ず2桁で指定してください。
 - ・64以上のリズム番号は、指定できません。
 - ・リズムが鳴っている間でも、リズムの種類を変更できます。
 - ・リズム番号を押し間違えたときは、2桁目を押す前に、リズムボタンを押せば、もとのリズム番号表示に戻ります。

リズムに変化をつけるには（フィルイン）



デモ演奏を聴いてみましょう



本機はデモ演奏曲を3曲内蔵しています。

曲番号	曲名	作曲者名	演奏時間
0	JASMINE TOUCHES DOWN	EDWARD ALSTROM	2分26秒
1	A NIGHT HAS 9000 BARS	カシオオリジナル曲 (編曲とプログラミング) THOMAS HIRSCH	1分34秒
2	CRUISIN'	LEE GROVES	1分48秒

準備

- 電源ボタンを“オン”にする。
- 全体の音量を調節する。

全曲を聴くには

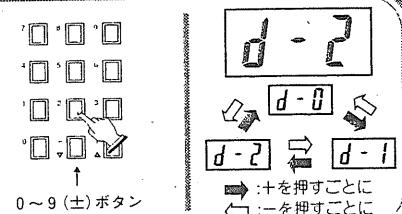
演奏を始めます。
→ 曲番号の順番に繰り返し演奏されます。



演奏中の曲番号が表示されます。

曲を選ぶには

曲を指定します。
(例:曲番号“2”)



d - 2

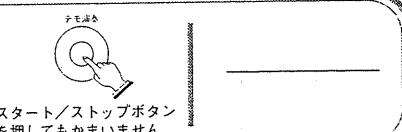
d - 0

d - 1

+:+を押すことに
-:-を押すことに

演奏を止めるには

デモ演奏ボタンを押します。

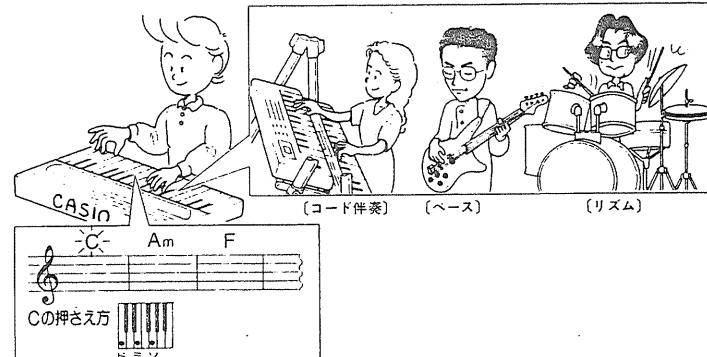


・デモ演奏曲の再生中に、鍵盤で演奏することができます。

自動伴奏を鳴らしてみましょう

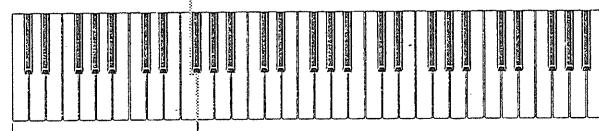
本機では曲に出てくるコードを押さえることで、ベースパート(低音部)とコード伴奏パートを鳴らすことができます。これらのパートはリズム(打楽器音)と連動しており、リズムの種類ごとに、その雰囲気に合った伴奏音が鳴ります。

これらに合わせて右手でメロディーを弾けば、一人でもアンサンブル演奏のような楽しさが味わえます。



伴奏鍵盤について

自動伴奏機能は、モードボタンを“カシオコード”または“フィンガード”に合わせ、伴奏鍵盤(下図)を押して、コードを指定することで働きます。この場合、伴奏鍵盤は「コード指定のスイッチ」としてのみ働き、通常の鍵盤演奏は、メロディー鍵盤の範囲でのみ可能となります。



伴奏鍵盤

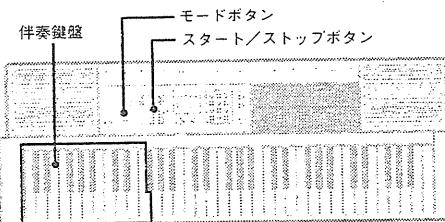
メロディー鍵盤 (モードボタンのランプがすべて消灯しているとき)
(は、すべての鍵盤がメロディー鍵盤となります。)

★ なお、すべての鍵盤を伴奏鍵盤、メロディー鍵盤として使用できるフルレンジコード1、フルレンジコード2もあります。(詳しくは34ページ参照)

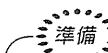
コードの指定方法について

コードの指定方法は次の4種類です。

カシオコード	フィンガード	フルレンジコード1	フルレンジコード2
4種類のコードを簡単な押さえ方で指定できます。例えばメジャーコードは指1本で指定します(29ページ参照)。	15種類のコードを、各コードの構成音を押さえて指定します(29ページ参照)。	すべての鍵盤を伴奏鍵盤、メロディー鍵盤として使用できます。(34ページ参照)	
点灯 モードボタン	点灯 モードボタン	点灯 モードボタン	点灯 モードボタン



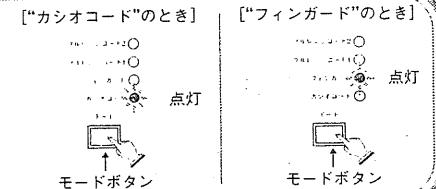
伴奏を鳴らすには



- 電源ボタンを“オン”にする。
- リズムを選ぶ。
- 全体の音量、伴奏の音量、テンポを調節する。

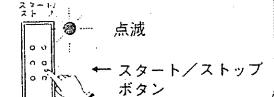
1

- コードの指定方法を選びます。
→ それぞれの指定のランプが点灯するまで、モードボタンを押します。



2

- リズムをスタートします。
→ 選んだリズムが鳴ります。



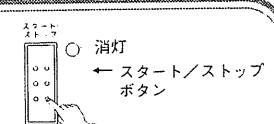
3

- コードを指定します。
→ 自動伴奏をスタートします。
例：“C (Cメジャー)” のコード



4

- 自動伴奏を止めます。



- 操作3でコードを指定すると、伴奏鍵盤から手を離しても、次のコードを指定するまで、同じ伴奏音が鳴り続けます。
- 実際に曲の演奏に使用するときは、操作3で曲のコード進行通りに次々とコードを指定しています。(33ページに操作例があります。)

カシオコード

コードを知らないでも、次の4種類のコードが簡単に指定できます。

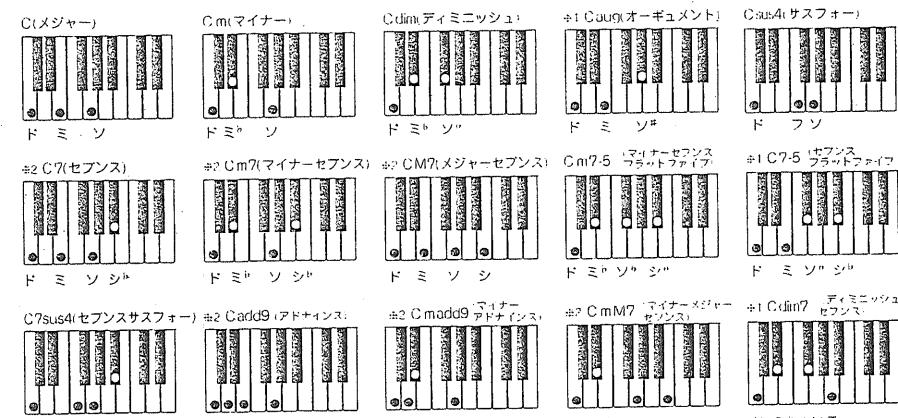
コードの種類	例
メジャーコード 伴奏鍵盤の上側にアルファベットで音名が書いてあります。コード名と同じ音名の鍵盤を1つ押します(伴奏鍵盤の範囲内であれば、1オクターブ違う同音でもかまいません)。	C 音名 → CCDE E FFGAABB CCDE E F (Cメジャー)
マイナーコード メジャーコードの押さえ方に加えて、伴奏鍵盤内の、それより右の鍵盤を1つ押します。	Cm (Cマイナー) CCDE E FFGAABB CCDE E F
セブンスコード メジャーコードの押さえ方に加えて、伴奏鍵盤内の、それより右の鍵盤を2つ押します。	C7 (Cセブンス) CCDE E FFGAABB CCDE E F
マイナーセブンスコード メジャーコードの押さえ方に加えて、伴奏鍵盤内の、それより右の鍵盤を3つ押します。	Cm7 (Cマイナーセブンス) CCDE E FFGAABB CCDE E F



• 2つめ以降の伴奏鍵盤は、1つめより右側なら白鍵・黒鍵を問わずどれでもかまいません。

フィンガード

この方法で指定できるコードは、15種類です。以下は“C”を根音とした場合の例です。根音が“C”以外のときは、伴奏鍵盤の範囲内での対応となります(52ページ「フィンガードコード一覧表」参照)。

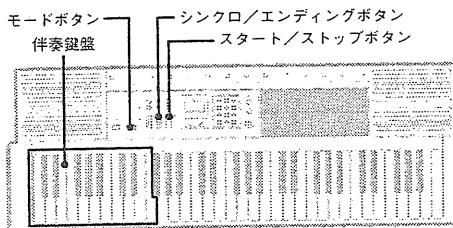


※1：転回形(参照)は使えません。最低音が根音となります。

※2：5度(ソ)の音を押さえなくとも、同じコードが指定できます。



- 伴奏鍵盤であれば上記の押さえ方(例えばCを「ドミソ」と押さえる)だけでなく、転回形(コードの構成音は同じで並び方の違う押さえ方。例えばCを「ミソド」や「ソドミ」と押さえる)も有効です。
…※1のコードを除く。
- 原則として上記の例のように、コードの構成音すべてを押さえる必要があります。構成音を省略したり1音のみを押さえても無効となり、意図したコードは指定されません。
…※2のケースを除く。



伴奏とリズムを同時にスタートさせるには（シンクロスタート）

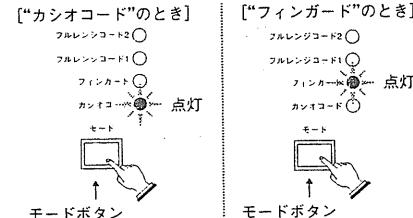
伴奏鍵盤を押さえてコードを指定すると同時に、リズムをスタートすることができます。



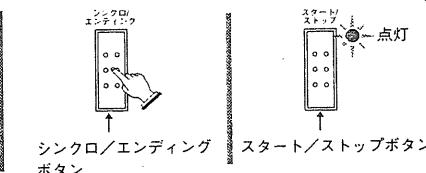
- 電源ボタンを“オン”にする。
- リズムを選ぶ。
- 全体の音量、伴奏の音量、テンポを調節する。



- コードの指定方法を選びます。
それぞれの指定のランプが点灯するまで、モードボタンを押します。



シンクロスタートの待機状態にします。

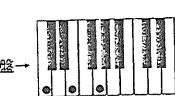


- コードを指定します。
→ 自動伴奏が始まります。
例：“C (Cメジャー)” のコード

[“カシオコード”的とき]



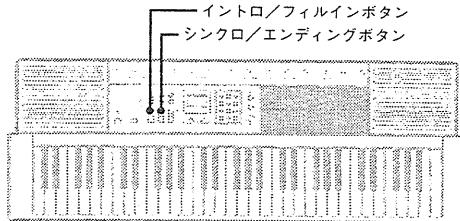
[“フィンガード”的とき]



自動伴奏を止めます。



- 30ページ操作 1 でモードボタンのランプがすべて消灯している状態にしたときは、操作 3 により、リズム（打楽器音）のみが鳴り始めます。この場合、操作 3 で伴奏鍵盤のどの音を弾いてもかまいません。（コードの指定である必要はありません。）

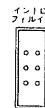


伴奏にイントロ、エンディングを加えるには

■ イントロについて ■

前奏は2~8小節です。

- ① 30ページの操作2に続けて、イントロ/フィルインボタンを押します。
(31ページの操作3でコードを指定すると、押されたコードの調で、前奏が始まります。)



- 最後の1小節でテンポランプの点滅が速くなり、前奏が終わることを知らせます。
- 前奏が終わると、自動的にそのリズムの通常の伴奏パターンの繰り返しとなります。

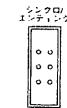


- イントロは、メジャーコード用とマイナーコード用があります。31ページの操作3で、それ以外のコードを指定すると、そのコードに合うように、どちらかが選ばれます。
- 30ページの操作2を省略して、イントロ/フィルインボタンを押すと、打楽器音のみの前奏が始まります。

■ エンディングについて ■

エンディングは、2~8小節です。

- ② 28ページの操作4でスタート/ストップボタンの代わりに、シンクロ/エンディングボタンを押します。



- そのとき指定されているコードに応じて、エンディングが鳴り、自動伴奏が止まります。



- エンディングは、メジャーコード用とマイナーコード用があります。それ以外のコードが鳴っているときにも、そのコードに合うように、どちらかが選ばれます。

実際に使ってみましょう

準備

- ・電源ボタンを“オン”にする。
- ・モードボタンを“カシオコード”または“フィンガード”にする。
- ・全体の音量、伴奏の音量、テンポを調節する。

曲名：茶色の小びん

(例) ● 音色 “34 テナーサックス”

● リズム “40 ホルカ1”

● テンポ “070”

★はじめは、ゆっくりとしたテンポで弾いてみましょう。

操作	右手のメロディ	C F G C			
		1 シンクロ/エンディングボタンを押す。	ミ ソ ソ	ファ ラ ラ	シ シ ラ シ
操作	左手のコード	2 イントロ/フィルインボタンを押す。			
		3 Cのコードを押さえる。 △ 前奏スタート	4 Fのコードを押さえる。	5 Gのコードを押さえる。	6 Cのコードを押さえる。
操作	左手のコード	“カシオコード”的とき			
操作	左手のコード	“フィンガード”的とき			

操作	右手のメロディ	C F G C			
		7 Fのコードを押さえる。	8 Gのコードを押さえる。	9 Cのコードを押さえる。	10 シンクロ/エンディングボタンを押す。 □ 伴奏ストップ
操作	左手のコード				
操作	左手のコード				



- 伴奏鍵盤はコードを変えるときだけ押し、その後は手を離してもかまいません(伴奏が同じコードで鳴り続けます)。
- 慣れてきたら操作6に続けて、すばやく左手でイントロ/フィルインボタンを押して効果を確かめてみましょう。

その他の伴奏機能（フルレンジコード）

すべての鍵盤を伴奏鍵盤、メロディー鍵盤として使用できます。フィンガードと違って、伴奏鍵盤でもメロディーが弾けたり、メロディー鍵盤でもコードを指定して、自動伴奏を鳴らすことができます。

■ フルレンジコード1について ■

鍵盤を3つ以上同時に押したとき、それらの組み合わせが、本機で判別できるコードのいずれかにあてはまった場合、コードが指定されます。

《本機で判別できるコード》

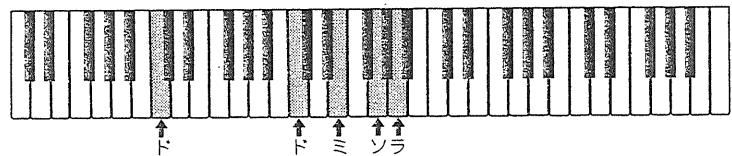
コードの種類	種類の数
フィンガードの対象コード	15種類(29ページ「フィンガード」参照)
それ以外のコード	23種類 以下は、"C"をベース音とした場合の例です。 $\frac{D}{C}, \frac{D}{C}, \frac{E}{C}, \frac{F}{C}, \frac{G}{C}, \frac{A}{C}, \frac{B}{C}, \frac{B}{C}, \frac{Dm}{C}, \frac{Dm}{C}$, $\frac{Em}{C}, \frac{Gm}{C}, \frac{Am}{C}, \frac{Bm}{C}, \frac{Dm^{\#}}{C}, \frac{A^{\#}}{C}, \frac{E^{\#}}{C}, \frac{Em^{\#}}{C},$ $\frac{Gm^{\#}}{C}, \frac{A^{\#}}{C}$ $C6^{\#}, Cm6^{\#}, C69^{\#}$

※ これらのコードは構成音だけを見ると、他の種類のコードと一致する場合のあるものです。

- (例) $C6 = \text{「ド・ミ・ソ・ラ」}$
- $Am^{\#} = \text{「ラ・ド・ミ・ソ」}$

構成音とは別に、それより低い位置で、ベース音も押させてください。

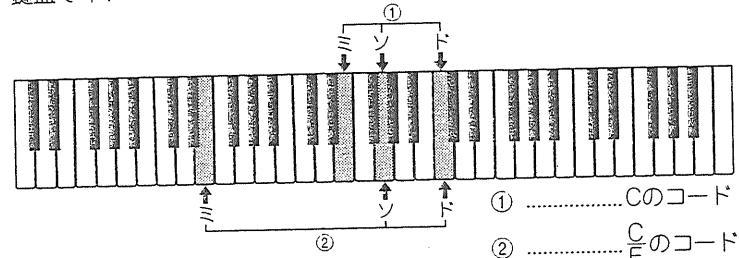
(例) $C6$



(例) Cメジャーの場合

Cメジャーの構成音は、「ド・ミ・ソ」です。

鍵盤で「ド・ミ・ソ」と押されると、下記のように指定されます。



《ポイント》

- 転回形については、フィンガードと同様です。(①)
- 最低音と右隣の音が5度以上離れた場合には、最低音をベース音として判別します。(②)

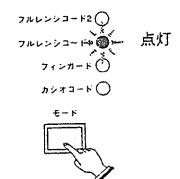


- コードが指定された場合にも、自動伴奏の音だけでなく、押した鍵盤の音もすべて鳴ります。

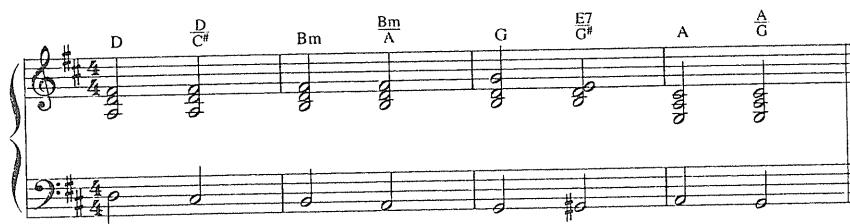
★フルレンジコード1を使って、演奏してみましょう。

準備

- 電源ボタンを“オン”にする。
- 全体の音量、伴奏の音量を調節する。
- シンクロ／エンディングボタンを押す。



- (例) 音色 … “08 エレクトリックオルガン”
 リズム… “02 バラード”
 テンポ… “070”

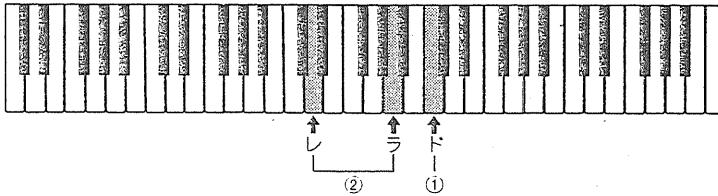


■ フルレンジコード2について

下記の2つのことができます。

- 鍵盤を3つ以上同時に押したとき…
本機で判別できるコードが指定されます。（フルレンジコード1と同様）
- 鍵盤を1つまたは同時に2つ押したとき…
押した鍵盤に合った伴奏*が構成されます。
※コードではありません。

(例)



- (1) “ド”の音で伴奏が構成されます。
 (2) “レ”と“ラ”的音で伴奏が構成されます。

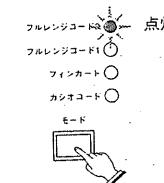


- コードが指定された場合にも、自動伴奏の音だけでなく、押した鍵盤の音もすべて鳴ります。

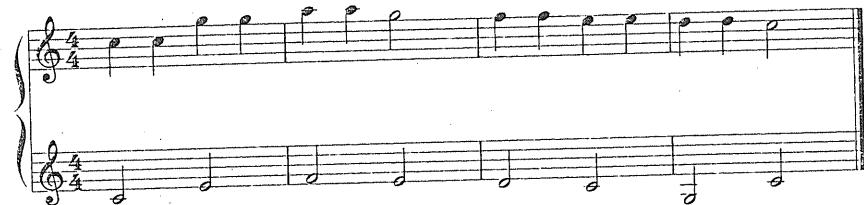
★フルレンジコード2を使って、演奏してみましょう。



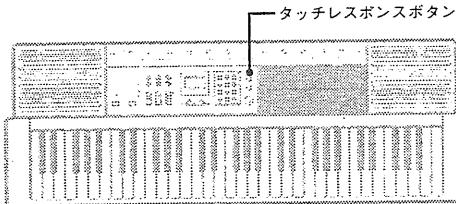
- 準備
- ・電源ボタンを“オン”にする。
 - ・全体の音量、伴奏の音量を調節する。
 - ・シンクロ／エンディングボタンを押す。



- (例) 音色 … “00 ピアノ”
 リズム … “03 ポップバラード”
 テンポ … “070”



全体の設定を変えてみましょう(便利な機能)



■ タッチレスポンスについて ■

タッチレスポンスとは

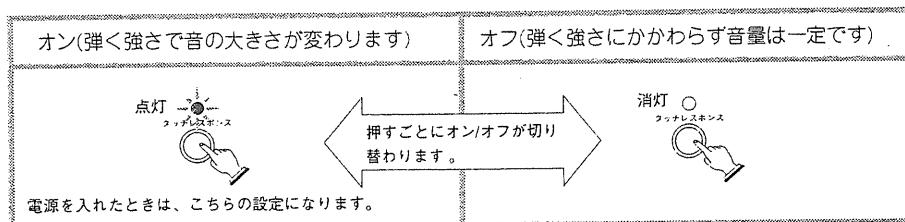
鍵盤を押す強さによって、音の大きさ*が変わらる機能です。

鍵盤を強く弾くと大きい音になり、弱く弾くと小さい音になります。

※ピアノなど減衰音では、強く弾くほど、音が消えるまでの時間も長くなります。

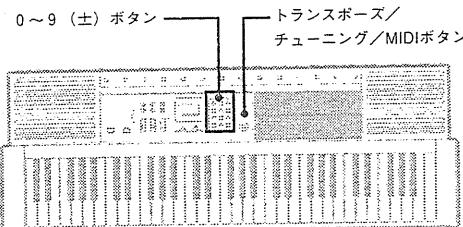
タッチレスポンスの“オン”／“オフ”

ボタンを押すごとに、“オン”・“オフ”が切り替わります。



NOTE

- タッチレスポンスは、自動伴奏機能（27ページ参照）には働きません。タッチレスポンスが“オン”的場合でも、伴奏鍵盤を押さえる強さにかかわらず、自動伴奏は一定の音量で鳴ります。



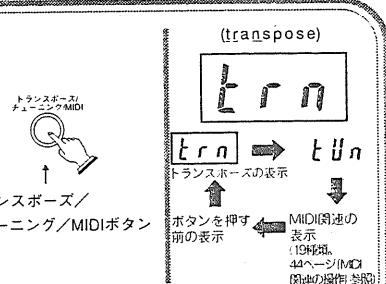
■ トランスポーズ（移調）について ■

この機能を使うと、本機の鍵盤全体の音の高さを、半音単位で上下させることができます。例えば、歌の伴奏をするとき、その楽譜が歌う人の声の高さに合わないことがあります。このようなとき、楽譜（指の位置）はそのままで、簡単に移調することができます。

1

トランスポーズの表示にします。

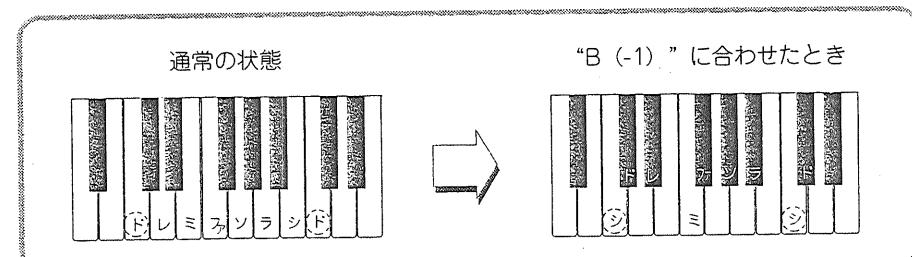
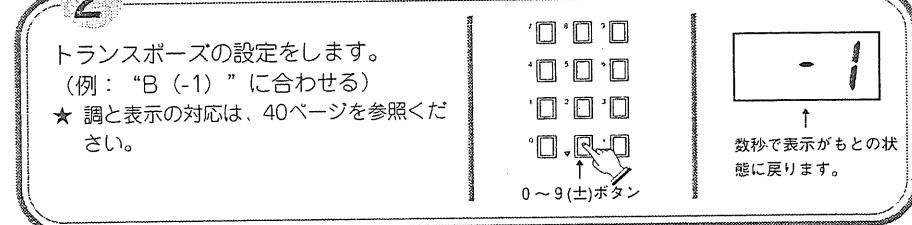
- ・ トランスポーズ／チューニング／MIDIボタンを1回押します。
 - ★ 表示されている間に操作2を行なってください。
 - ★ トランスポーズ／チューニング／MIDIボタンを押すごとに表示が切り替わります。



2

トランスポーズの設定をします。

★ 調と表示の対応は、40ページを参照ください。



[調と表示の対応]

調 : F# ♪ G ♪ A ♪ A ♪ B ♪ B ♪ C ♪ C# ♪ D ♪ E ♪ E ♪ F

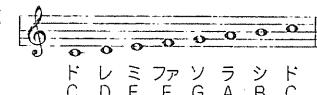
表示 : -6 ♪ -5 ♪ -4 ♪ -3 ♪ -2 ♪ -1 ♪ 0 ♪ 1 ♪ 2 ♪ 3 ♪ 4 ♪ 5

♪ : +を押すごとに

□ : -を押すごとに



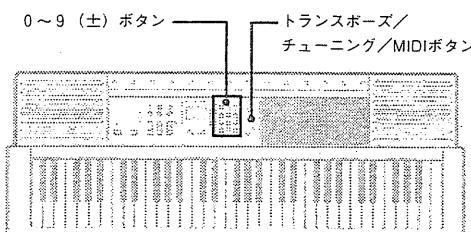
音名の対応

ド レ ミ フ ア ソ ラ シ ド
C D E F G A B C

- 操作2で0～9（±）ボタンの[1]～[5]を押して、C♯～Fを直接指定することができます。
- 操作2で[+]と[-]のボタンを同時に押すと、“C（0）”に戻ります。
- デモ演奏曲を演奏すると“C（0）”に戻ります。
- 出る音の高さは音色によって異なります(48ページ参照)。トランスポーズの結果、その音色の発音域よりも高くなった範囲は、同じ音名で一番近い発音域内の音(オクターブ違いの音)に置き替わります。
- 音色の“63 バーカッショーン”(打楽器音)と、自動伴奏のリズムには働きません。
- 音色の“60～62”(21ページ「組み合わせの音色について」参照)をトランスポーズさせると、音色の割り当ての範囲が変わります。

■ チューニングについて

他の楽器に合わせて、チューニングできます。



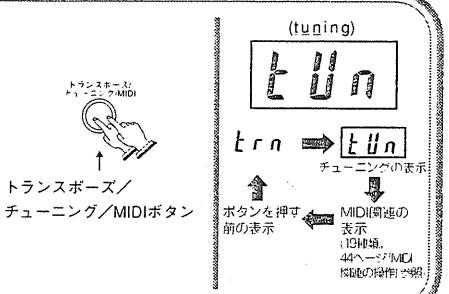
1

チューニングの表示にします。

- トランスポーズ/チューニング/MIDIボタンを2回押します。

★ 表示されている間に操作2を行なってください。

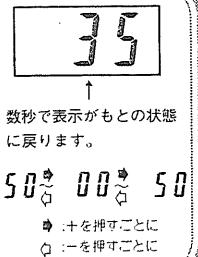
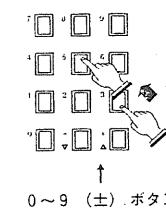
★ トランスポーズ/チューニング/MIDIボタンを押すごとに表示が切り替わります。



2

チューニングの設定をします。

(例：“3 5”に合わせる)



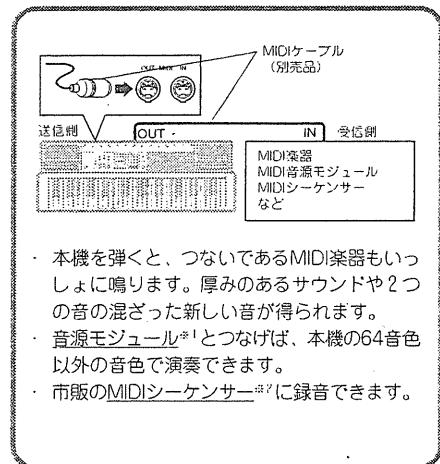
- 操作2の後、チューニングの設定が表示されている間にトランスポーズ/チューニング/MIDIボタンを押すと、チューニングの表示に戻ります。
- 音の高さの変化は、±約50セント(101段階)までです。
※100セント=半音
- 電源を入れたときは、“0 0”になります。
- 操作2で[+]と[-]のボタンを同時に押すと、“0 0”に戻ります。
- デモ演奏曲を演奏すると、“0 0”に戻ります。
- 自動伴奏のリズムには、働きません。

MIDIとは

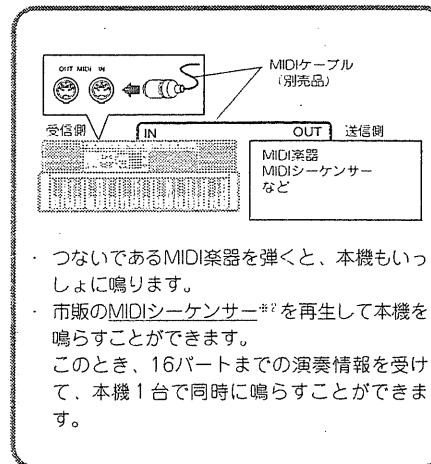
MIDIとは“Musical Instrument Digital Interface”的略で、電子楽器の外部コントロール用端子のことです。その統一規格がMIDI規格で、その端子を持つ電子楽器やパソコンの間で、データをやりとりすることができます。

MIDIでできること

■ 送信



■ 受信



相手側の機器に、MIDI INもMIDI OUTもある場合は、2本のMIDIケーブルで、上記の両方の接続をしておくと便利です。

※1： 電子楽器の鍵盤部分を外し、外部のコントロールで鳴るようにしたものです。

※2： 録音や再生をすることができる機器です。

■ 音域について

MIDIでは、C-1～G9までの128音階を扱うことになっています。本機の各音色は、本機の61鍵分（61音階）よりは高い音、低い音を内蔵していますが、128音階すべてには対応しません。

本機に備わる音域[※]より、高い音や低い音を受信したときは、次のいずれかの対応となります。

- 同じ音名で、本機の鳴らすことのできる音のうち、一番近い音（オクターブの違う、同音名の音）を代わりに鳴らす。
- 音が鳴らない。

[※]本機に備わる音域は、音色によって異なります。（50ページ「音色別発音域表」参照）

■ デモ演奏曲について

- デモ演奏曲の内容を送信することはできません。
- デモ演奏中は受信することができます。

■ タッチレスポンスについて

タッチレスポンスが“オフ”的状態でも、強弱付きで送信・受信されます。

■ 10チャンネルについて

下記の項目は、10チャンネルで受信することができます。

ノート・オフ[#]、プログラム・チェンジ、ピッチ・ベンダー、モジュレーション、ホールド1、ソステナート
※ 音色によって異なります。

■ MIDIインプリメンテーション・チャートについて

巻末に綴じ込みのチャートには、本機とMIDI機器間で、データ転送がどのように実行（インプリメンテーション）されるか、をまとめてあります。

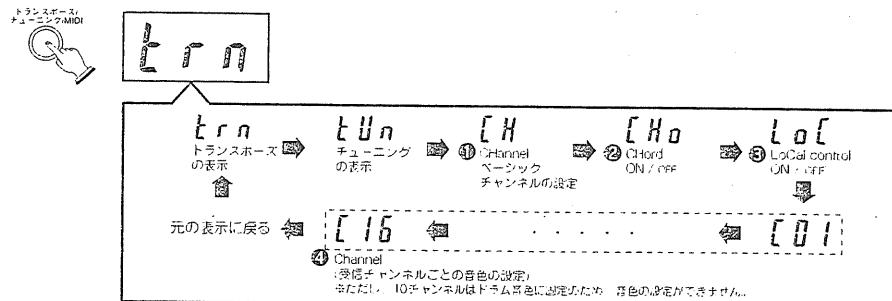
MIDI機器に共通の、定められたフォーマットに従って、ここに解説した本機の仕様を、専門的に記述したものです。

MIDI関連の操作

操作の概要

トランスポーズ／チューニング／MIDIボタンを押すごとに操作内容が切り替わる、メニュー方式になっています。

希望のメニューを選んだら、0～9(±)ボタンで数値を変更したり、設定内容を選択します。
※この操作は、各メニュー画面が表示されている間に行なってください。操作を行なわないうちに数秒たつと、各メニュー画面は自動的にトランスポーズ／チューニング／MIDIボタンを押す前の画面に戻ってしまいます。



① ベーシックチャンネルの設定 ([CH])

MIDIでは1から16までのチャンネルで送受信を行ないます。ここでは、本機の鍵盤演奏の情報（鍵盤を押す雖す、音色の変更）をどのチャンネルで送るか、を変更することができます。

このメニューを選ぶと、数秒後に現在設定されているチャンネル番号(01～16のいずれか)が表示されます。

必要に応じて、0～9(±)ボタンで数値を変更してください。
(数字を押すときは“02”など2桁で押します)



● 本機では特定のチャンネルを受信しないように設定することはできません。必要な場合、送信側で設定してください。

② CHORDのON/OFF ([Ch])

これは、MIDI INの受信データを本機内で、コード判別するかしないかを決める設定です。
このメニューを選ぶと、数秒後に現在の設定“onまたはoff”と“Cho”が交互に表示されます。

必要に応じて、(+)または(-)のボタンを押して、切り替えます。

コード判別しない場合 ([off])

1～16チャンネルの演奏情報が送られた場合、各チャンネルがそれぞれの受信データ通りに演奏されます。

コード判別する場合 ([on])

● ベーシックチャンネルのデータの場合

- ・モードボタンがカシオコード／フィンガードのとき…
C1～F3までの受信データをカシオコード／フィンガードのコード判別のしかたで判別します。
- ・モードボタンがフルレンジコード1／フルレンジコード2のとき…
C1～G9までの受信データをフルレンジコード1／フルレンジコード2のコード判別のしかたで判別します。

③ ベーシックチャンネル以外のデータの場合

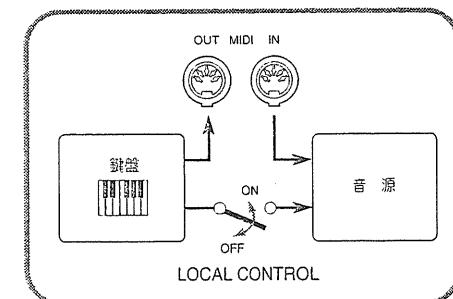
ベーシックチャンネル以外のチャンネルの演奏情報が送られた場合、各チャンネルがそれぞれの受信データ通りに演奏されます。

④ Local controlのON/OFF ([LoC])

鍵盤による演奏情報が、MIDI OUT端子経由で外部へは送られ、本機の音源には送られない（つまり本機で演奏しても本機が鳴らない）ように設定できます。

このメニューを選ぶと数秒後に、現在の設定（onまたはoff）と“LoC”が交互に表示されます。

必要に応じて+ボタン、-ボタンを押し
て切り替えます。



次の場合、この設定は自動的にonになります。

- 電源を入れたとき
- デモ曲を鳴らしたとき

⑤ 受信チャンネルごとの音色の設定 ([01]～[16])

本機は1～16チャンネルのそれぞれに、本機の64音色からひとつ選んで割り当てるすることができます。外部に市販のMIDIマルチトラックシーケンサーを接続することで、本機の音色を最大16種類まで同時に鳴らすことができます（ただし同時発音数24音の範囲で）。

C01からC16がチャンネル1からチャンネル16に対応しています。

希望のチャンネル番号のメニューを選ぶと、数秒後に、現在の設定（00～63の音色番号）が表示されます。
これを変更するときは、次の操作を行なってください。

0～9(±)ボタンを押して、00～63の音色番号を指定します。
数字を押すときは“02”など2桁で押します。

※ 10チャンネルは打楽器専用チャンネルとなっており、本機では音色の割り当てを行なうことができません。（C10は表示されません。）



● 本機では特定のチャンネルを受信しないように設定することはできません。必要な場合、送信側で設定してください。

● 10チャンネルの打楽器専用チャンネルは、トランスポーズ、チューニングが働きません。

故障とお思いになる前に

現象

原因

解決方法

参照

鍵盤を押しても音が出ない。

- 電源が正しくセットされていない。
- 全体の音量が"00"の位置にある。
- ヘッドホンをつないである。
- モードボタンのランプが"カシオコード"や"フィンガード"の位置で点灯しているときは、伴奏鍵盤での通常演奏はできません。
- ローカルコントロールが"OFF"になっている。
- 外部のMIDI機器の指定により、1チャンネルの音量が0になっている。

☞14, 15ページ

- ACアダプターが正しく接続されているか、電池の(+)の向きが正しいか、電池が消耗していないかを確認する。
- 全体の音量のボタンを押す。
- ヘッドホンをヘッドホン/出力端子から抜く。
- モードボタンのランプを消灯させる。
- ローカルコントロールを"ON"にする。
- 外部のMIDI機器で1チャンネルの音量を調節する。

☞18ページ

☞17ページ

☞22ページ

☞45ページ

リズムの音が出ない。

- 伴奏の音量が"00"になっている。

- 伴奏の音量のボタンを押す。

☞22ページ

自動伴奏の音が出ない。

- 伴奏の音量が"00"になっている。

- 伴奏の音量のボタンを押す。

☞22ページ

電池で使用していく以下の状態となった。

- 電気ランプが暗くなつた。
- 音量が小さくなつた。
- 音質が劣化した。
- 大きな音を出すと時々音が途切れる。
- 大きな音を出すと、突然電源が切れ。
- 鍵盤を押していないのに音が出続ける。
- 指定の音色とは異なる音を発音する。
- リズムやデモ演奏曲などが正しく発音されない。

- 電池が消耗している。

- 新しい電池と交換する。

☞15ページ

ご使用上の注意

表紙裏の「安全上のご注意」と併せてお読みください。

- テレビやラジオの近くでは使わないでください。

テレビやラジオの画像や音が、乱れことがあります。そのようなときは、テレビやラジオから充分に離してお使いください。

- お手入れにベンジンなどの化学薬品を使わないでください。

鍵盤などのお手入れは、柔らかな布を薄い中性洗剤液に浸し、固く絞って拭いてください。ベンジン、アルコール、シンナーなどの化学薬品は絶対にご使用にならないでください。

ウエルドライン

外観にスジのように見える箇所がありますが、これは、樹脂成形上の"ウエルドライン"と呼ばれるものであり、ヒビやキズではありません。ご使用にはまったく支障ありません。

音のエチケット

楽しい音楽も時と場合によっては気になるものです。特に静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。周囲に迷惑のかからない音量でお楽しみください。窓をしめたり、ヘッドホンを使用するのもひとつ的方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

- 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不明な点や誤りなど、お気付きの点がございましたらご連絡ください。

- 本書の一部または全部を無断で複写することは禁止されています。また個人としてご利用になるほかは、著作権法上、当社に無断では使用できませんのでご注意ください。

- 本書および本機の使用により生じた損失、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても当社では一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

- 本書の内容に関しては、将来予告なく変更することがあります。

製品仕様

型式	カシオCTK-530
鍵盤	61鍵 5オクターフ（標準鍵盤） タッチレスポンス機能付き (キャンセル可能)
音色数	64種類
同時発音数	最大24音（一部音色により最大12音）
デモ演奏曲	曲数：3曲 0 JASMINE TOUCHES DOWN (EDWARD ALSTROM) 1 A NIGHT HAS 9000 BARS (ARRANGED AND PROGRAMMED BY THOMAS HIRSCH) 2 CRUISIN' (LEE GROVES) 再生方式：全曲繰り返し再生
自動伴奏機能 リズムパターン数 テンポ コード その他	プリセット64種類 可変 (216段階) =40~255 4種類 (カシオコード、フィンガード／フルレンジコード1／フルレンジコード2) イントロ／フィルイン、シンクロ／エンディング
その他の機能 トランスポーズ チューニング	12段階 (F#~C~F) 可変 A4=440Hz±50セント
MIDI	16マルチティンバー受信
スピーカー	ø12cm x 2 (出力2W + 2W)
入出力端子	電源端子 DC9V ヘッドホン・出力端子 ステレオ標準ジャック 出力インピーダンス50Ω 出力電圧4V (RMS) MAX MIDI端子 IN, OUT
電源 電池 家庭用100V電源 オートパワーオフ機能	2電源方式 単1形電池6本使用 電池持続時間 約5時間 ... マンガン電池R20P (SUM-1) 使用時 ACアダプター AD-5JL (付属品) 使用 約6分後 キャンセル可能
消費電力	7.7W
サイズ	幅93.1 x 奥行32.6 x 高さ9.9cm
重量	約4.4kg (電池含まず)
付属品	譜面立て、ACアダプター (AD-5JL)、和文操作シート、取扱説明書 (本書)、保証書

★改良のため、仕様およびデザインの一部を予告なく変更することがあります。

【別売品のご案内】

商品名	品番
ヘッドホン	CP-3A
ソフトケース	SC-500B
スタンド	CS-4
	CS-7B
	CS-10
MIDIケーブル	MK-5

レッスンビデオ、楽譜集は49ページをご覧ください。

★別売品はいずれも、カシオ電子楽器取扱店（全国の有名楽器店、デパートなど）でお求めになれます。

カシオトーン用ソフトのご紹介

●自動伴奏機能付カシオトーン全機種対応レッスンビデオ ビデオでレッスンチャレンジカシオトーンシリーズ



LKV-11 子供用入門

ドレミがわからなくても大丈夫、アニメを交えた説明で、楽しく練習できます。
曲目： チューリップ・ちょうちょ・ショップスティックス・きらきらぼし・おどるポンポコリン
・となりのトトロ



LKV-32 楽しいレパートリー2

ドレミはわかるけれど、楽譜は苦手という方に。
曲目： 夏の思い出・四季の歌・エデンの東・くちなしの花・君といつまでも

●楽譜集

やさしく弾けるファミリーキーボードライブラリー カシオトーンランドシリーズ

CFL-101YC ようこそカシオトーンランドへ	CFL-102HC 初めてのカシオトーン	CFL-103KU こどものうた1	CFL-104KU こどものうた2	CFL-105TV T Vソング1
(子供用入門) 大きな栗の木の下で 茶色のこびん かうこう 他 全37曲	(大人用入門) 河は呼んで 500マイルはなれて 駆馬車 他 全35曲	アイアイ いぬのおまわりさん ぞうさん 他 全45曲	晉がきた 赤とんぼ ハイ・ホー 他 全44曲	となりのトトロ 勇気のしるし おどるポンポコリン 他 全30曲
CFL-106YH ヤングベストヒット1	CFL-107HP ヒットポップス	CFL-108NM ニューミュージック	CFL-109EL イージーリスニング	CFL-110KH カラオケヒット
OH YEAH! あー 夏休み 千流の雲 他 全22曲	すべてをあなたに やさしく歌って レット・イット・ビー 他 全29曲	いとしのエリー ANNIVERSARY SUMMER CANDLES 他 全24曲	オリーブの首飾り マイ・ウェイ ある愛の詩 他 全29曲	釜山港へ帰れ つぐない 別れても好きな人 他 全30曲
CFL-111HS ヒットソング1	CFL-112HS ヒットソング2	CFL-113RK 永遠のロック		
君がいるだけで それが大事 ラブストーリーは突然に 他 全20曲	SAY YES どんなときも 会いたい 他 全21曲	肯い影 キラー・クイーン スマート・オン・ザ・ ウォーター 他 全21曲		

★上記ご案内は、本書印刷時点でのものです（万一品切れの際はご容赦ください）。

★別売品はいずれも、カシオトーン取扱店（全国の有名楽器店、デパート）でお求めになれます。

音色別発音域表

音色別発音域表

音色番号	最大同時発音数	音域のタイプ
00	24	A
01	24	A
02	12	A
03	24	B
04	24	B
05	12	B
06	24	B
07	24	B
08	12	B
09	12	B

音色番号	最大同時発音数	音域のタイプ
10	12	B
11	12	B
12	12	B
13	24	B
14	24	B
15	24	B
16	24	B
17	24	B
18	24	B
19	24	B

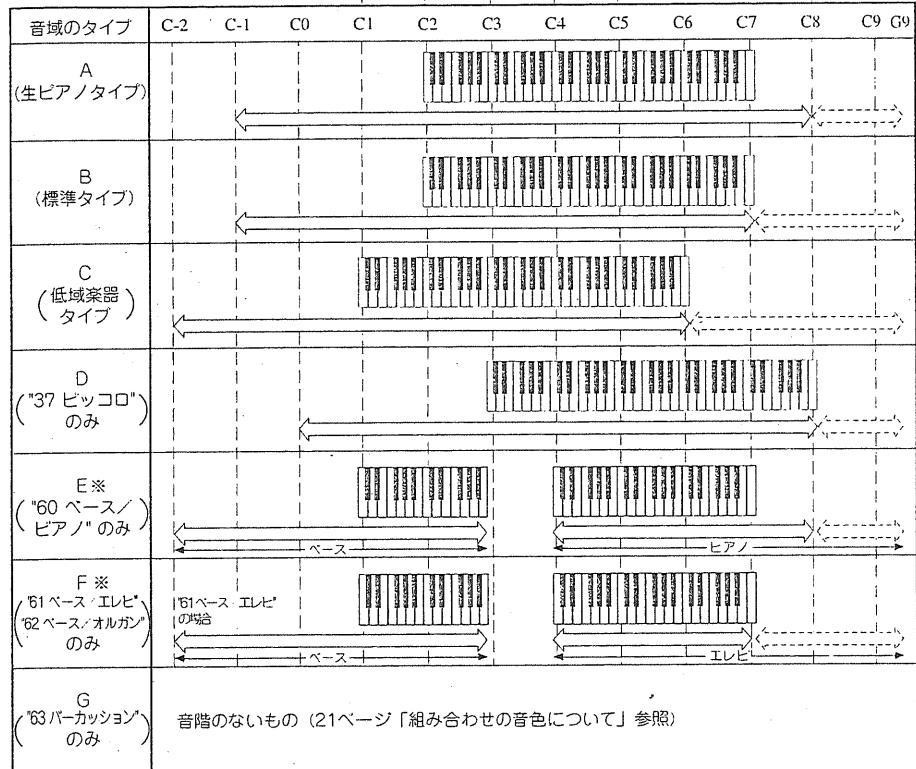
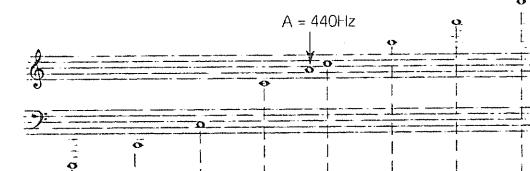
音色番号	最大同時発音数	音域のタイプ
20	24	B
21	24	C
22	24	C
23	24	C
24	24	B
25	24	C
26	24	B
27	24	B
28	24	B
29	24	C

音色番号	最大同時発音数	音域のタイプ
30	24	B
31	24	C
32	24	B
33	24	B
34	24	B
35	24	B
36	24	B
37	24	D
38	24	B
39	24	B

音色番号	最大同時発音数	音域のタイプ
40	24	B
41	24	B
42	24	B
43	12	B
44	12	B
45	12	B
46	12	B
47	12	B
48	12	B
49	12	B

音色番号	最大同時発音数	音域のタイプ
50	12	B
51	12	B
52	12	B
53	12	B
54	12	B
55	12	B
56	12	B
57	12	B
58	12	B
59	12	B

音色番号	最大同時発音数	音域のタイプ
60	24	E
61	24	F
62	12	F
63	24	G



a 鍵盤演奏時の音域

b 発音可能音域 (トランスポーズ、MIDIの受信時)

c bの範囲の一番近い同名の音に置き代わる音域
(トランスポーズ、MIDIの受信時)

* 組み合わせの音色です。 (21ページ「組み合わせの音色について」参照)

フィンガードコード一覧表

よく使われるコードの各キーでの押さえ方です（転回形も含まれています）。

コードの種類 (ルート)	メジャー	m (マイナー)	7 (セブンス)	m7 (マイナーセブンス)	dim7 (ディミニッシュセブンス)
C					
C [#] /(D ^b)					
D					
(D [#])/E ^b					
E					
F					
F [#] /(G ^b)					
G					
(G [#])/A ^b					
A					
(A [#])/B ^b					※
B					※

コードの種類 (ルート)	M7 (メジャーセブンス)	m7-5 (マイナーアンプラットファイア)	dim (ディミニッシュ)	aug (オーギュメント)	sus4 (サスフォー)
C					
C [#] /(D ^b)					
D					
(D [#])/E ^b					
E					
F					
F [#] /(G ^b)					
G					
(G [#])/A ^b					
A					
(A [#])/B ^b				※	
B				※	

※ 伴奏鍵盤の範囲の関係で、“フィンガード”では指定できません。

このコードを含む曲では、“フルレンジコード”（34ページ参照）をご利用ください。

コードの 根音 (ルート)	コードの 種類	7sus4 (セブンスサスフォー)	m add9 (マイナーアドナインス)	mM7 (マイナーメジャーセブンス)	7-5 (セブンスフラットファイフ)	add9 (アドナインス)
C						
C#/(D ^b)						
D						
(D#)/E ^b						
E						
F						
F#/(G ^b)						
G						
(G#)/A ^b						
A						
(A#)/B ^b						
B						

Model CTK-530 MIDIインプリメンテーション。チャート

Version: 1.0

ファンクション		送 信		受 信		備 考	
ベースイック チャンネル	電源ON時 設定可能	1 1 ~ 16	1 1 ~ 16	1 ~ 16 1 ~ 16			
モード	電源ON時 メッセージ 代用	モード3 X	モード3 X	モード3 X			
ノート ナンバー	音 域	* * * * *	* * * * *	* * * * *			
ペロシティー	ノート・オン ノート・オフ	○ 9nH v=1 ~ 127 × 9nH v=0	○ 9nH v=1 ~ 127 × 9nH v=0	○ 9nH v=1 ~ 127 × 9nH v=0, 8nH v=* *		* 音色によって異なる (48ページ参照)	
アフター タッチ	キー別 チャンネル別	X	X	X			
ピッチ・ベンダー		X		O			
コントロール チェンジ		X 7 10 11 64 66 67	X X X X X X	O O O O O O		モジュレーション ボリューム パン エクスプレッション サステイン ソフトペダル	
プログラム チェンジ	設定可能範囲	○ 0 ~ 63 * * * * *	○ 0 ~ 63 * * * * *	○ 0 ~ 63 * * * * *			
エクスクルーシブ		X		X			
コモン	ソング・ポジション ソング・セレクト チューン	X X X		X X X			
リアル タイム	クロック コマンド	X X	X X	X X			
その他	ローカルON/OFF オール・ノート・オフ アクティブ・センシング リセット	X X X	X X X	X X X			

モード1：オムニ・オン、ボリ モード2：オムニ・オン、モノ
モード3：オムニ・オフ、ボリ モード4：オムニ・オフ、モノ